

家畜衛生研修会 (病性鑑定病理部門, 2008) *†
における事例記録 (IV)

Proceedings of the Slide-Seminar held by the Livestock Sanitation Study Group
in 2008 *† Part IV

(2009年7月22日受付・2009年10月29日受理)

31 ハクチョウの鳥インフルエンザウイルス (H5N1)
による壊死性膵炎

[小川秀治 (秋田県)]

オオハクチョウ, 雌, 成鳥, 斃死例. 2008年4月に十和田湖において, 斃死鳥3羽と衰弱鳥1羽を回収し, 剖検を実施した. 斃死鳥3羽に裂傷や筋肉欠損, 内臓の露出がみられた. 衰弱鳥に外傷はみられなかった.

剖検では, 斃死鳥1羽に膵臓の褪色および出血斑, 他の個体に気候の軽度混濁, 肝臓の褪色, 腹腔内吸虫寄生がみられた.

組織学的には, 膵臓に大小の多発性巣状壊死および腺房細胞の変性 (図31), 壊死巣内に中等量の偽好酸球浸潤および軽度の出血巣, 導管周囲に軽度のリンパ球浸潤が認められた. その他, 非化膿性脳炎, 腸管の神経叢神経節炎および筋層血管周囲の単核細胞浸潤, 肝臓・肺・腸管に住血吸虫様の虫体が認められた. 抗A型インフルエンザウイルスマトリックス抗体 (Serotec) を用いた免疫染色により, 膵臓の変性腺房細胞, 大脳と延髄の変性神経細胞および腸管の神経叢神経節細胞に陽性抗原が確認された.

※以降、詳しくは日本獣医師会雑誌Vol.63 No.6をご覧ください。

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所 (〒305-0856 つくば市観音台3-1-5)

* *National Institute of Animal Health (3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan)*

† 連絡責任者: 谷村信彦 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所)

〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 ☎029-838-7818 FAX 029-838-7825 E-mail : nt0410@affrc.go.jp

† *Correspondence to : Nobuhiko TANIMURA (National Institute of Animal Health)*

3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan

TEL 029-838-7818 FAX 029-838-7825 E-mail : nt0410@affrc.go.jp